

# 子どもたちと教職員のウェルビーイングの実現をめざして 令和6年度 第62回岩手県小学校長会総会



第319号

岩手県小学校長会  
代表 前川岳詩  
事務局 TEL.019(623)8955  
盛岡市紺屋町2の9  
盛岡市勤労福祉会館2F  
印刷 富士屋印刷所



第六十二回岩手県小学校長会の総会が、四月十九日(金)、県内十三地区から二百五十八名の会員(会員総数二百六十八名)が出席し、都南文化会館(キャラホール)を会場に開催されました。  
総会で選出された前川岳詩会長(盛岡・中野

小学校)は、挨拶の中で、教職員自身のウェルビーイングを高め、働きがいや生きがい、幸福感を感じる職場づくりを目指し、「校長が自ら学び続けること」「校長間や行政等とのつながり」「教職員の人材育成」を大切にしていきたいと訴えました。総会の内容は、次のとおりです。

### 総会Ⅰ

- 一 開会の言葉  
堀切茂行(岩手)
- 二 国歌斉唱(斉唱)
- 三 会長代行挨拶  
前川岳詩会長代行
- 四 感謝状並びに記念品の贈呈  
退会者四十四名
- 五 退会者代表挨拶  
佐藤 淳前会長
- 六 来賓祝辞
  - (一) 岩手県教育委員会  
教育長 佐藤一男 氏
  - (二) 岩手県市町村教育委員会協議会  
会長 多田英史 氏



感謝状贈呈



被災地状況報告



総会提案

- 七 岩手県教育委員会行政説明  
(一) 教職員課首席経営指導  
主事兼小中学校人事課  
長兼職務管理監  
佐藤孝之 氏
- (二) 学校教育室首席指導主  
事兼義務教育課長  
武藤美由紀 氏
- 八 被災地報告  
市村かおり(釜石)
- 九 議長選出・署名委員委嘱・  
書記任命
- 十 報告
- 十一 議事
- 十二 新役員あいさつ
- 十三 閉会の言葉  
浅沼清智(花巻)

※閉会后、理事・評議員合同会議並びに各専門部の合同会議開催

### 大会宣言

岩手県小学校長会は、本会結成以来、会員の英知と情熱を結集して、課題解決に主体的に取り組み、着実にその成果を上げてきた。

私たちは、東日本大震災発災後からの会員の総意「明日を拓く、岩手の絆」を決して忘れることなく、校長として、使命と職責の重大さを深く自覚し、「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成」を目指すとともに、「いわての復興教育」の視点で踏まえた学校づくりを推進し、県民の信託に応える責務がある。

ここに、岩手県小学校長会会員の総力を結集し、次の事項の実現に全力を傾注することを、第六十二回総会の総意をもって宣言する。

- 一 確かな経営理念のもと、「生きる力」を育み、社会に開かれた教育課程の編成と、着実な実施、評価、改善を行い、より一層創意に満ちた学校経営の充実に努める。
- 一 被災地区の学校運営上の諸課題や本県全体の復興教育の現状を的確に把握し、震災後十三年の経過を情報共有するとともに、震災の教訓を未来に語り継ぐ活動や「いわての復興教育」を継続して推進する。
- 一 校長自らが主体的に学び続ける姿勢をもち、主題研究や調査研究を通じ、見識や指導性を高めるよう研鑽に励む。また、教職員の人材育成と専門性向上に資する取組を推進する。
- 一 多様な価値観の存在を認めるとともに、自他のかけがえのない生命を大切にし、共によりよく生きようとする資質や能力の向上に向け、人間尊重の精神を培う教育を推進する。
- 一 障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズを把握しながら支援体制の充実を図るとともに、特別な支援を要する子どもも多様な学びの場の充実に努める。
- 一 教職員の安心感や充実感等のウェルビーイングの向上に向け、情報交換の機会の充実を図るとともに、地域社会や関係諸機関、団体と連携した働き方改革を推進する。
- 一 調査研究及び要望活動を組織的に推進し、人的措置の充実やICT環境整備等、教育諸条件の改善・整備のための取組を促進する。
- 一 広報活動の充実と会員相互の情報交流との連携強化を図る。

令和六年四月十九日  
岩手県小学校長会 第六十二回 総会

## 子どもたちと教職員のウェルビーイングの実現をめざして



岩手県小学校長会

会長 前川 岳 詩

さわやかな春風がそよぎ、県内各地から華やかな桜の便りが聞こえてきます。入学や進級の喜びを胸に、桜の下で元気に駆け回る子どもたちの笑い声が聞こえてきます。

本日ここに、岩手県教育委員会教育長 佐藤一男様、岩手県市町村教育委員会協議会副会長 佐美淳様をお迎えし、関係各位のご支援とご協力のもと、第六十二回岩手県小学校長会総会を開催できましたことに、深く感謝申し上げます。

また、この三月をもって本会を退会されました四十四名の校長先生方には、岩手の教育への多大なるご尽力と私ども後輩への温かなご指導を賜りましたことに、心より敬意と御礼を申し上げます。

そして、今年度新会員としてお迎えした四十九名の校長先生方には、心強い仲間として、会員一同歓迎いたします。これまでのご自身の豊富な教育実践を生かし、存分にお力を発揮されますとともに、皆様の高い意欲と柔軟な発想

力で、校長会にも新しい風を吹き込んでいただきますことを期待いたします。

さて、本日の総会は、県小学校長会の今後一年の方向性を確認し合う大事な会であります。

これまで、私たち校長は、東日本大震災やコロナ禍等、前例のない幾多の困難に直面しながらも、互いの英知を結集し、その課題解決に主体的に取り組み、多くの成果を上げてきました。その一方で、教育課程の着実な推進、教職員の人材育成、働き方改革、教員不足、生徒指導対応等、学校は現在、多くの課題に直面しております。

さらに、今年度からは、国の第四期教育振興計画の策定を受け、新たな岩手県教育振興計画がスタートしました。また、中教審では、教職員の処遇改善や教員採用、教育課程等に係る議論も進み、日本の教育は、今大変大きな変革期を迎えていると言えます。

こうした状況下、今、私たちに求められることは、変化する時代

の潮流や山積する課題に下を向くのではなく、不易と流行を見極め、校長が率先して学校を元気にし、子どもたちも教職員も、一人一人が生き生きと過ごせる学校づくりを力尽くすことであると考えます。今年度の学校教育指導指針には、「すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現をめざして」という方向性が示されましたが、その実現には、教育活動を最前線で担う教職員自身のウェルビーイングを高め、一人一人の教職員が、自らの職務に働きがいや生きがい、幸福感を感じながら、心身ともに元気に教育活動に臨めるような職場づくりが大切です。

そのために、校長として、また本会会員として、大事にしたいことを三点挙げさせていただきます。

一つは、私たち自身が、自ら学び続ける校長であり、互いに学び合える校長会でありたいということです。「組織はリーダーの力量以上には伸びない」「学び続ける者だけが、人を教えることができる」という言葉があります。教職員のリーダーとして、教育に関する動向を的確にとらえ、最新の情報を得たり、他校の実践から積極的に学び合ったりする姿勢が、私たち校長に求められています。そのためにも、校長会が持つ、学び

合いの機能が重要です。それぞれの校長先生が、互いの思いや教育観、学校経営の実践を語り合うこ

とは、大きな刺激と知見を得られる機会として貴重です。そして、校長自身が示す積極的な学びの姿は、他の教職員にもより良い範となり、意欲と活力に満ちた創造的な職場づくりにつながるものだと思います。

二つ目に大事にしたいことは、「つながり」です。子どもたちや教職員を元気にするために、私たち校長自身が元氣であることが必要です。私たちの職務は、日々、判断と決断の連続であり、悩みも迷いも多くありますが、苦しいときこそ、前を向いて笑顔で教職員の前に立つ校長でありたいものです。悩みや困り感を共有し、語り合う場が校長会にはあります。校長職の元氣を生む「つながり」を大事にしたいと思えます。

また、地区校長会や行政、関係機関等とのつながりも大切です。目指すべき教育の方向性を確認したり、互いの取組や各地区の情報交換に努めたりすること、また、現場の声を関係機関に届けたりすること等を通し、教育環境の改善や学校経営の充実に生かしていきたいと思えます。

三つ目に大事にしたいことは、教職員の人材育成です。一人一人の教職員に確かな力をつけさせることは、それぞれの職員のやりがいや充実感、達成感、職場への所属感を高めることにつながります。

現在、教師不足が深刻な状況に

あります。本県独自の課題でもあ

る復興教育への意識の低下も心配されます。こうした状況を踏まえ、私たち校長は、持続可能な岩手の教育をつくり、発展させていくために、危機感をもって一人一人の職員をしっかりと育てる人材育成に臨む必要があると考えます。県校長会としても、人材育成を大事なテーマの一つとして、皆さんと共に考えていきたいと思えます。

当地盛岡市見前出身で本県出身メジャーリーガーとして世界で活躍する菊池雄星選手が、「岩手には人という花をきれいに咲かせる土壌がある」と語ったことがあります。この言葉は、岩手県教育振興計画の基本目標「学びと絆で夢と未来を拓き、社会を創造する人づくり」自分らしい生き方の表現に向けた、新たな時代のいわての教育」と重なります。私たち校長は、その人づくりを担う小学校教育の最高責任者であることに使命感と誇りを持ち、全ての子の幸せの実現を目指し、岩手の教育の充実と発展に向け、全力で職務に向かうことを皆さんとともに確認し合いたいと思えます。

結びに、本日の総会の開催にあたり、多大なるご協力をいただきました岩手県教育委員会、並びに県内市町村教育委員会、また、総会の運営にご尽力いただきました盛岡市校長会の皆様に深く感謝申し上げます。挨拶といたします。

祝辞(要旨)

岩手県教育委員会

教育長 佐藤 一男様



まずもつて、校長先生方には、各学校の最高責任者として日々

学校経営に御尽力いただいていることに対し、心から感謝を申し上げます。

また、この度、新たに校長の職に就かれた皆様には、本県の教育に新しい風を吹き込み、子どもたちの幸せのために、情熱と創造性をもって、学校経営に思う存分力を発揮されますよう御期待申し上げます。併せて、様々な教育課題への対応に向けて、常に連携を図り、組織的に御対応いただいている県小学校長会の皆様の御尽力に対し、心から感謝と敬意を表します。

県では、自らの夢や目標に向けた思いや決意、地域に対する考えについて、多くの子どもたちからいただいた意見を踏まえ、今般、「岩手県教育振興計画(二〇二四〜二〇二八)」を策定いたしました。本計画は、「学びと絆で夢と未来を拓き社会を創造する人づくり」を継承しつつ、新たな時代の中で、誰一人として取り残されず、県民一人一人の個性や能力が発揮

され、自分らしく生き生きと活躍できる社会の実現に向けて、教育の分野で貢献していくことを基本目標としています。各学校におかれましても、この岩手県教育振興計画や学校教育指導指針の中に示しております具体的な指標を御確認いただき、すべての子どもたちの自分らしい生き方の実現に向けて、教育活動の一層の充実をお願いいたします。

小学校教育は、子どもが主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるよう、幼児教育との円滑な接続を図ることが求められています。開設三年目を迎えます「いわて幼児教育センター」では、「いわて就学前教育振興プログラム」に基づき、就学前教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図ってまいります。各小学校におかれましては、幼児期に育まれた非認知能力などの資質・能力を踏まえ、それらをさらに育成することができるよう、就学前教育との連携をより一層深め、低学年からの学びの基盤づくりを推進していただきたいと思います。

県では、岩手の教員のあるべき姿を実現する研修体系の在り方を検討し、昨年度、新たな「教員等育成指標」に基づく研修制度を構築しました。校長先

生方におかれましては、これまでも、教職員の資質・能力の向上、キャリア形成に向けた指導・支援について、御尽力いただいております。積極的な対話を通して、教職員一人一人が適切な目標設定や現状把握に努め、変化を前向きに受け止めながら探究心を持って自律的に学ぶことができるよう、引き続き人材育成に向けてお力添えいただきますようお願いいたします。

グローバル化や気候変動などの地球環境問題、少子化・人口減少などの社会課題や国際情勢の不安定化の中で、「持続可能な社会の創り手」を育成する、教育にかかる期待は、ますます大きくなってまいります。各学校におかれましては、改めて、子どもが権利をもつ主体であり、大人と同じ一人の人間として基本的な人権を有することを理解、尊重したうえで、「多様性と包摂性のある学校文化の醸成」を図りながら、教師が伴走者として学びを支え、「子どもを主語にした学び」が一層推進されることを期待しております。

結びとなりますが、今後とも、岩手の子どもたちのより一層の成長のために、御尽力いただくことをお願い申し上げます。あわせて、県小学校長会のますますの発展を御祈念申し上げます。祝辞といたします。

祝辞(要旨)

岩手県市町村教育委員会協議会

会長 多田 英史様



(代読)佐美淳様  
一月一日、能登地方で大きな地震が発生しました。

亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

本日ここに、令和六年度岩手県小学校長会総会が、盛大に開催されますことを、岩手県市町村教育委員会協議会を代表し、一言ご挨拶を申し上げます。

御参会の皆様には、本県の学校教育の充実と発展に御尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

また、この三月をもちまして御退職されました皆様の、これまでの御労苦と御功績に対し、心から感謝と敬意を表しますとともに、今年度新たに校長に昇任されました皆様に対し、心からお祝いを申し上げます。

さて、県教育委員会では、復興教育の推進と共に、学校教育推進上の主な取組として、子どもたちの視点からの学びの充実、ICT等を効果的に活用した学習の質の向上、地域や地域産業との連携・協働による魅力ある学校づくり、学校・家庭・

地域の協働の推進などを、県全体で推進しております。岩手の復興・発展、そして、地域を支える人材を育成するために、校長先生方のリーダーシップの下、各学校や地域の実情に応じた様々な活動に取り組まれているものと存じます。一方では、働き方改革に応じた業務改善や教職員の健康確保など、教育や学校を取り巻く状況は、大きく変化しており、広範にわたる対応が求められております。

こうした中であって、私たちががなすべきことは、保護者や地域の信頼に応える確かな教育を実現し、子どもたちに、生きる力を育むことであります。校長先生方におかれましては、教職員一人一人が、教育に携わることに責任と誇りを持ち、豊かな人間性と、深い専門性を発揮して、教育活動に邁進するとともに、子どもたちが将来に向かって自己実現が果たされるよう、一層の指導をお願いするものであります。

教育現場の様々な課題に対して、大いに指導力を発揮していただき、開かれた学校経営を推進し、学校・家庭・地域が協力して、明るく、賢く、たくましい子どもたちの育成に御尽力いただきたいと思います。

結びに、本会のみならずの発展と、皆様方の一層の御活躍と御健勝を祈念し、祝辞といたします。

行政説明の概要

教職員課首席経営指導主事兼小中学校人事課長兼服務管理監 佐藤 孝之 様



- 1 定期人事異動について ( ) 内は昨年度比  
異動総数は1,206名(-77名)教職員全体の19.7%  
(1) 管理職 校長昇任 77名(-5名) 副校長昇任 86名(+19名)  
校長：女性の割合：18.7%  
(2) 新採用 小学校教諭(127名)、中学校教諭(75名)、養護教諭(19名)、栄養教諭は現在募集停止  
採用試験の申込方法に電子申請を導入。ペーパーティーチャー研修会による人材の掘り起こしを実施。
- 2 少数数教育の推進について  
3つの柱「少数数級」「少数数指導」「サポート推進事業」により推進していく。
- 3 小学校高学年における教科担任制の推進について  
年々小学校専科指導加配の数が増えている。授業の質の向上、多面的な児童理解、教員負担軽減の成果が報告されている。
- 4 (暫定)再任用・定年延長等について  
再任用・定年延長 395名 29時間勤務の希望者が多いが、フルタイムに変更いただく方もいる。  
定年前再任用短時間勤務、高齢者部分休業制度等の新たな制度について理解を深め、適切に対応願いたい。
- 5 人材育成について  
副校長や主幹教諭の受験資格の年齢を引き下げている。主幹教諭の受験者が少ない現状があり、適任者への声掛けをお願いしたい。実習校や教育行政で力を発揮させたい人材について、情報提供願いたい。
- 6 不祥事の未然防止について  
昨年度の懲戒処分件数は13件、過去5年間の平均が11件であり多い状況。教員の児童生徒に対する対応に係り保護者が不満を訴え、多様化・長期化する事案が増えている。初期対応を適切に行い、日頃から危機管理の意識を高めておくこと。現在、再発防止「岩手モデル」を策定している。不適切な指導の根絶にむけた取組の工夫をお願いしたい。
- 7 働き方改革の取組について  
世の中の働き方が大きく変わってきていることを全職員で確認しながら、学校運営上、必要不可欠なものと削減できるものを見極め、児童と教職員がともに幸せを感じることでできる働き方改革の取組をお願いしたい。

すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現をめざして

学校教育室首席指導主事 兼 義務教育課長

武藤美由紀様



今年度から岩手県教育振興計画(二〇二四、二〇二八)に基づく推進となり、諸計画等を踏まえ、内容を整理しているものが学校教育指針である。指針の表紙に示しているウェルビーイングという国の方向性について、現場の先生方一人一人に御理解いただくことを目指している。一人一人が幸せや生きがいを感じ、地域や社会全体が幸せや豊かさを感じられることにつながる教育の在り方を重視について、先生方へ指導をお願いしたい。

一 いわて県民計画第二期アクションプランに基づく教育施策の推進

(一) 岩手で、世界で活躍する人材の育成

自分の住む地域が好きだと思っている児童生徒の割合について、人口減少に伴い、地域の担い手となる子どもたちには、地域のよさを実感できる活動、地域への愛着を育むことにつながる活動を一層大切に取り組むことが学校の役割として一層期待される状況

にある。

(二) 確かな学力の育成

「教育課程全体で『話すこと』『書くこと』等の言語活動の充実を図っている学校の割合」と、「諸調査結果や日々の授業から明らかになったつまずきに着目した授業改善を行っている学校の割合」の二つの項目は、確かな学力育成プランに基づく着実な推進により改善が図られていく項目となる。特に、言語活動の充実、日々の授業での思考の言語化・可視化を促す重要な活動であり、今求められている思考力・判断力・表現力の育成に資するものである。

二 「子どもを主語にした学び」の実現

指導と評価の一体化について、単元の評価規準、内容のまとまりごとの評価規準を設定して指導した結果、その学習の定着状況はどうだったのか、力が付いたと言えるのか、という点における協議や検証を必ず位置付けていただきたい。子どもたちの資質能力の定着を見極める上でも、そして授業力の向上のためにも、実を伴う指導と評価の一体化になるよう指導をお願いしたい。

三 岩手県道徳教育ガイドブック増補版の活用

人権教育と関わらせた道徳教育実践等、各学校での推進

に役立つ取組を掲載している。各校で活用願いたい。

四 岩手県外国人児童生徒等教育方針の活用

今後増加が見込まれる外国人児童生徒等への指導について、「外国人等の子どもの就学促進」「学校の受入れ体制の整備」「日本語指導・教科指導、生活指導、進路指導等の充実」という三つの柱を基本的な考え方として構成し、幼児から高校進学後までを見据えた方針としている。いつ対応を要する状況になっても、慌てることなく対応できるように、あらかじめ理解しておく必要がある教育分野である。

学校経営の成果は数値化できるものとはできないものがある。だからこそ、目に見える形で子どもたちの姿で示していくことができるように、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくうえで「カリキュラム・マネジメント」が一層重要となる。今後も、学びと絆で夢と希望を開き、社会を創造する人づくりを目指して、校長先生のリーダーシップのもと、今年度も創意工夫溢れる教育の推進をお願いしたい。

# 地区校長会研究交流

「確かな学力と豊かな心を持ち、力強く未来を生きぬく子どもを育てる学校経営」を目指して

## 胆江地区小学校長会

### 一 組織と活動、役割

胆江地区は、令和五年度に奥州市内小学校七校が閉校し二校に統合され、奥州市内小学校二十校、中学校七校と、金ケ崎町内小学校五校、中学校一校を合わせた三十三校で構成されており、胆江地区校長会はその三十三校の校長によって組織されています。

胆江地区校長会は、小学校長会と中学校長会があり、四班に分かれて行う実践研究や懇親会、送別会などを通して小・中の連携を図りながら情報共有を行ったり、見識を深め合ったりしています。

また、研修の目的として「確かな学力と豊かな心を持ち、力強く未来を生きぬく子どもを育てる学校経営」を掲げ、様々な活動を通して、校長としての資質と指導力の向上を図るとともに、会員相互の連携を深め、学校経営の充

実を図っています。

### 二 基本方針

本校長会会則に示される目的に基づき、職務の遂行に必要な研修を通して、校長としての資質能力と指導力の向上を図るとともに、会員相互の連携を深め、学校経営の充実に資する。

### 三 活動方針

- (一) 学校経営研究会を通して、学校経営及び課題解決事例を学び、自校の学校経営の改善、充実を図る。
- (二) 岩手県小・中学校長会の研究主題に即して研究を深め、資質と指導力の向上を図る。
- (三) 研修視察及び関係研究大会等に積極的に参加し、識見を高める。

### 四 活動内容

- (一) 学校経営研究会の開催
  - ア 各中学校区を単位に、年二回開催する。
  - イ 学校運営上の諸問題を中心にした研究協議・講話等により、学校経営の充実を図る。
  - ウ 招聘する講師は、各班の意向を集約し、理事会で決定する。
  - エ 令和五年度の計画
    - ① 第一回 金ケ崎中学校区
      - ・ 金ケ崎小学校
      - ・ 金ケ崎中学校
    - ② 第二回 前沢中学校区
      - ・ 前沢小学校
      - ・ 前沢中学校
    - オ 内容
      - ・ 授業参観
      - ・ 研究協議

びの実現に向けた授業改善の推進（学校の特色を生かした取組を通して）」

(令和六年度県発表)

- 【二班 小学校】 九名
- ◇教育課題 自立と社会性
- ◇研究主題 「未来への夢や志を育むキャリア教育の推進」組織的な推進体制の確立と児童の成長や変容を自覚させる取組を通して」(令和六年度県発表)

- 【三班 小学校】 九名
- ◇教育課題 社会との連携・協働
- ◇研究主題 「家庭・地域との連携による『地域と共にある学校』の推進」『社会に開かれた教育課程』の実現を目指して」

- 【四班 中学校】 八名
- ◇教育課題 特別活動
- ◇研究主題 「よりよい社会の形成者の育成を目指した特別活動の推進」自己肯定感を育む指導を通して」

- (三) 県外視察の実施
- ア 場所 宮城県
  - ① 大崎市古川第一小学校
  - ② 石巻市震災遺構門脇小学校

- イ 参加者 二十五名
- (四) 各種研究大会への参

### 加

- ア 東北地区中学校長会研究協議会福島大会
- イ 東北連合小学校長会研究協議会山形大会
- ウ 全国連合小学校長会研究協議会東京大会
- エ 全日本中学校長研究協議会大分大会

- (五) 胆江地区校長会研究発表大会の開催
- ア 期日 令和六年一月二十九日
- イ 内容 班ごとの研究発表及び質疑応答

- (六) 「令和五年度 研究集録 第二十八集」の発行

歴代の先輩校長先生方が、たとえコロナ禍であっても「校長の学びを止めない」との信念で、校長会としての学びと研修を継続されてきたことに改めて敬意を表するとともに、私たち校長が自ら学び続ける教師として、校長同士の連携を重視しながら共に前進してまいりたいと考えております。

(金ケ崎町立永岡小学校 佐藤 真)

### 五 結び

### 新たな教育課題への対応

## 子どもが主語となる授業観への転換と ICT の有効活用

～単元での授業づくりと学びの積み上げ～

一関地区小学校長会(山目小学校の実践から)

#### 一 ICT 研究のジレンマ

- ◆ ICT ありきの研究では ICT 以前に、教科指導の基本こそ研究すべきでは

これは、ICT 研究三年目を振り返った本校教員の率直な反省です。

本校では、研究一・二年目の「ICT を使い慣れる段階」から、三年目の「ICT を有効活用する段階」へと歩みを進めてきました。昨年度三年目の研究会では、次のような課題が繰り返し出されてきました。

- ① 四十五分の枠内で ICT を活用するタイムマネジメントや見取りと評価の難しさ
- ② 個別最適な学びの充実に向けた、ICT を含む学び方の積み上げの必要性
- ③ 個々の学びを ICT で共有した後の学び合いや練習の在り方

①には、ICT により変化した授業への戸惑いが表れています。また②③には、ICT は有効なツールではあるものの、学びを深めるには、これまで通り、教師による学び方の積み上げと授業力が欠かせないという再確認が表れています。

このように、ICT 活用を進めれば進める程、結局は授業力に立ち戻されるジレンマが研究の迷いにもつながりました。

新年度に向け「ICT 以外の研究を」との声も一部ありました。校長として研究継続を判断しました。それは、子どもに寄り添い意欲的に授業づくりに取り組んできた本校教員ならば、求められる授業観の転換の中で、ICT の本領が発揮できると考えられます。

#### 二 教師のコントロールから マネジメントへの転換

迷いながら進めてきた本校の ICT 研究でしたが、次のようなヒントも見えてきました。

- ① ICT は個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる極めて有力なツール。四十五分内で教師がコントロールしようとする意識から、単元を通じて子どもの学びをマネジメントする意識への転換が必要であること
- ② ICT を含む学び方を発達段階に応じて計画的に積み上げ、教師に頼らなくても自律的に学ぶ資質能力の育成を図っていくこと
- ③ ICT の機能も生かし、教師が学びを練り上げる方途や子ども自身で学びを深める方途を実践から探ること

今日、ICT 活用に関わらず、教師の都合やコントロール重視の授業観から、子どもが主語となる学びのマネジメントへの授業観の転換が求められています。このような授業観への転換あってこそ、ICT の本領が発揮されると考えています。

#### 三 子どもが主語となる 授業観への転換

(1) 特支学級の実践をヒントに 本校は伝統的に特別支援教育を重視しています。子どもが主語となる授業観への転換に向けても、次の実践がヒントになると考えます。タブレットで撮影した友達の写真に、その子のよさを書き込み、伝え合うという授業でした。

- ① 子どもが学級の仲間と一緒に「やってみよう」と思える課題設定がされたこと
- ② タブレットを使った自分につながり、個の学びも友達との交流も深められたこと
- ③ 自分に合った入力方法(キーボード、フリック、手書き、音声等)等、学び方の積み上げにより、他にも活用できる資質能力が養えたこと



友達の方法で書き込むよさを自分につなげる

多様な生きづらさを抱える子どもたちの学びを、単元を通して実現していく授業づくりがされていきました。そして、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる ICT 活用により、資質能力を育むことにつながった実践でした。

#### (2) 単元づくりと 学び方の積み上げ

今年度、本校の研究は、これまでの ICT の活用事例を増やすことから、授業観を転換する中での ICT の有効活用へと歩みを進めます。研究の柱は次の二点です。

- ① 子どもの思考の流れや興味関心を中心にした単元づくりと ICT の有効活用
- ② 発達段階における ICT 活用と学び方の積み上げ

四 「学習者」を育てる授業を 育みたいのは、ICT の達人ではなく、ICT も上手に使い、教師や大人の手を離れても、学び続ける人づくりです。日々の授業で「学習者」を育てる意識をもち続けたいと思います。

山目小学校 H P もぜひご覧ください。  
(一関市立山目小学校 菊池正人)



菊池正人

# 令和6年度

## 岩手県小学校長会役員

### 会長（1名）

盛岡地区 盛岡市立中野小学校長 まえかわ たけし 前川 岳詩

### 副会長（4名）

盛岡地区 盛岡市立桜城小学校長 いとおかりゅう たろう 飯岡竜太郎

花巻地区 花巻市立笹間第一小学校 あさぬま きよとも 浅沼 清智

釜石地区 釜石市立鶴住居小学校長 さとう かずしげ 佐藤 一成

久慈地区 久慈市立久慈小学校長 さとう たかし 佐藤 隆司

### 会計監事（3名）

紫波地区 矢巾町立矢巾東小学校長 おぼら けん 小原 賢

一関地区 一関市立室根小学校長 さとう やすひこ 佐藤 泰彦

二戸地区 軽米町立軽米小学校長 さとう のぶゆき 佐藤 伸之

### 常任理事（5名）

総務部 盛岡市立津志田小学校長 かわむら あきひろ 川村 憲弘

行財政部 盛岡市立杜陵小学校長 なかわら さちこ 中村 幸子

研修部 盛岡市立仁王小学校長 こんのおさむ 金野 治

広報・編集部 盛岡市立仙北小学校長 むらた ひろたか 村田 浩隆

生徒指導部 盛岡市立上田小学校長 いしがめ たける 石亀 健

### 事務局（2名）

事務局長 かわむら あきひろ 川村 憲弘

常勤書記 いしがめ さとみ 石亀 智美

### 理事

### 評議員

地区名	学校名	理事氏名	学校名	評議員氏名	学校名	評議員氏名
盛岡	緑が丘	高畑 嗣人	米内	杉本 光生	生出	天沼 正明
			巻堀	川越 浩子		
岩手	御所	堀切 茂行	平笠	釜石 由仁	平館	長山 政志
紫波	古館	細川 佳紀	煙山	加藤 均		
花巻	笹間第一	浅沼 清智	矢沢	長山 ゆかり		
遠野	綾織	菊池 国子	遠野	菊池 春夫		
和賀	黒沢尻西	佐々木 修	江釣子	門屋 健司		
胆江	水沢	佐藤 利康	水沢南	菅原 るみ子	金ヶ崎	最上 啓
一関	東山	金里 徹	川崎	菅原 秀文	長島	瀧野澤 公美
気仙	矢作	蒲生 正光	高田	佐藤 健	有住	新沼 健
釜石	鶴住居	佐藤 一成	栗林	八木澤 江利子		
宮古	宮古	福德 潤	豊間根	富澤 広子	岩泉	吉田 浩規
久慈	久慈	佐藤 隆司	長内	小関 稔	野田	板垣 健
二戸	福岡	筒井 裕一	中央	本宮 真樹	一戸	根反正 樹

# 専門部担当理事・専門委員等

(◎は部長)

## 総務部担当理事 (6名)

高畑 嗣人 (盛岡・緑が丘)  
浅沼 清智 (花巻・笹間第一)  
佐藤 一成 (釜石・鶴住居)  
佐藤 隆司 (久慈・久慈)  
飯岡竜太郎 (盛岡・桜城)  
◎川村 憲弘 (盛岡・津志田)

## 行財政部担当理事 (3名)

佐々木 修 (和賀・黒沢尻西)  
金里 徹 (一関・東山)  
◎中村 幸子 (盛岡・杜陵)

## 研修部担当理事 (3名)

佐藤 利康 (胆江・水沢)  
筒井 裕一 (二戸・福岡)  
◎金野 治 (盛岡・仁王)

## 広報・編集部担当理事 (4名)

堀切 茂行 (岩手・御所)  
菊池 国子 (遠野・綾織)  
福德 潤 (宮古・宮古)  
◎村田 浩隆 (盛岡・仙北)

## 生徒指導部担当理事 (3名)

細川 佳紀 (紫波・古館)  
蒲生 正光 (気仙・矢作)  
◎石亀 健 (盛岡・上田)

## 行財政対策委員 (5名)

伊藤 茂美 (盛岡・山岸)

吉田 洋倫 (盛岡・大慈寺)  
菊池 一章 (盛岡・青山)  
大澤 滋 (盛岡・飯岡)  
三浦 建成 (盛岡・向中野)

## 調査研究専門委員 (6名)

梅野 展和 (盛岡・好摩)  
中村 宗宏 (盛岡・本宮)  
君塚 裕子 (盛岡・河北)  
吉田 武雄 (盛岡・城北)  
野崎 祐司 (盛岡・高松)  
及川 崇 (盛岡・永井)

## 広報・編集委員 (5名)

八重樫深雪 (盛岡・渋民)  
浅利 宏光 (盛岡・太田東)  
佐藤 勤 (盛岡・見前南)  
佐藤 修 (盛岡・都南東)  
桑原 玲子 (盛岡・玉山)

## 生徒指導委員 (5名)

澁谷 浩 (盛岡・太田)  
内田留美子 (盛岡・山王)  
八木橋信也 (盛岡・月が丘)  
小田島晃司 (盛岡・東松園)  
山内 弘文 (盛岡・見前)

## 全連小理事 (2名)

前川 岳詩 (盛岡・中野)  
川村 憲弘 (盛岡・津志田)

## 全連小教育環境整備等委員会 (1名)

石亀 健 (盛岡・上田)

## 全連小健全育成委員会 (1名)

村田 浩隆 (盛岡・仙北)

## 全連小各部担当者 (3名)

(1) 対策担当者  
中村 幸子 (盛岡・杜陵)  
(2) 調査研究担当者  
金野 治 (盛岡・仁王)  
(3) 広報担当者  
村田 浩隆 (盛岡・仙北)

## 全連小総会代議員 (3名)

浅沼 清智 (花巻・笹間第一)  
鈴木久美子 (遠野・青笹)  
佐々木 修 (和賀・黒沢尻西)

## 東北連小理事 (2名)

前川 岳詩 (盛岡・中野)  
飯岡竜太郎 (盛岡・桜城)

## 東北連小監事 (1名)

金野 治 (盛岡・仁王)

## 東北連小委員 (2名)

(1) 教育課程委員  
金野 治 (盛岡・仁王)  
(2) 対策委員  
中村 幸子 (盛岡・杜陵)



理事会・評議員会合同会議



行財政部合同会議



総務部担当理事・地区事務局長合同会議

## 編集後記

新年度を迎え、各校では、希望に胸膨らませて登校する子どもたちと、その期待に応えようと頑張る教職員の姿を見ることができます。そのような中、総会での挨拶や行政説明をお聞きすることで、子どもたちの幸せ、教職員の幸せを大切にしたいとの思いが一層溢れてきました。子どもの幸せがあつて教職員が幸せを感じ、教職員が幸せを感じている姿をみて、子どもも温かさに包まれ、幸せを感じるのだと改めて思いました。急激に変化する社会の中にあつて、将来、自己実現を果たすことのできる人づくりを担う学校への期待は、より一層大きくなってきています。これらの期待に応えるためには、次世代の担い手を育てることが大切であり、学校の仕事は「幸せ」を感じることができ、魅力ある職業であることを、社会全体に広げていくことも我々校長の責務であると強く感じました。各校の子どもたちの「幸せ」の実現を目指して、本会報において情報を発信してまいります。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(広報・編集部 村田 浩隆)